

What's JDM?

世界が熱中する'80-'90年代の日本車

トヨタ博物館
TOYOTA AUTOMOBILE MUSEUM

はじめに

近年Japan Domestic Market (JDM)と呼ばれる日本国内市場のクルマを輸入して楽しむ文化がアメリカやイギリスを中心に、定着しつつあります。特に1980~90年代の日本車の人気は高く、中古車相場を押し上げるまでになっています。2024年にトヨタ博物館で開催された世界自動車博物館会議でも海外各自動車博物館からは日本車をテーマにしたプレゼンテーションがあり、近年の日本車人気を物語るものとなりました。

今回の企画展では海外で高い人気を誇る1980~90年代の貴重な日本車を、各自動車メーカー、博物館のご協力を得て一堂に集めて展示いたしました。

なぜ今、当時の日本車が海外で人気なのか?の理由を探るとともに、日本車が世界に誇れる魅力的なものであると感じていただき、将来人気ができる日本車は何なのか?皆様も思いを巡らせてみてはいかがでしょうか?

2025年10月
トヨタ博物館

What's JDM?

JDMとはJapan Domestic Market、日本国内市場のことを意味します。自動車関係では日本国内専用に販売されたクルマのことを指し、日産自動車のスカイラインGT-Rが代表的なJDM車両の一つです。アメリカでは製造から25年経過したクルマをクラシックカーとして輸入できる制度があり、通常では登録することが難しい右ハンドルの日本車でも登録がしやすくなります。1989年に発売されたBNR32型スカイラインGT-Rが2014年にこの制度を利用してアメリカで登録ができるようになりJDMブームが巻き起こりました。

スカイラインGT-Rに限らず、映画やアニメに登場したAE86型スプリンタートレノ、FD型RX-7、JZA80型スープラなど、もともとアメリカに正規輸出されていた車両にも人気は広がりました。さらにはスポーツカーのみならず、セダン、ワゴン、軽自動車に至るまでさまざまなジャンルの車がJDMとして人気を博しており、アニメのレプリカ仕様にカスタマイズしたり、ナンバープレートや車検ステッカーなど日本独自のものにも注目し、その仕様を再現したり思い思いのカスタマイズを施すなどクルマ周辺文化までその人気広がっています。



多様なジャンルのJDM車両が存在



ナンバープレートやステッカー類も日本仕様を再現

アニメや映画のレプリカ仕様を楽しむ層も多い

写真提供: JAPANESE CLASSIC CAR SHOW

JDM の広がり

日本車を愛する人たちが広がるにつれ、日本車を対象としたイベントの開催も増えてきています。日本車のオーナーズクラブも設立されており、参加者数も年々増加しています。さらには伝統のある世界の自動車博物館でも日本車を扱う展示が増えており、JDMを含む日本車の人気は世界的に広がっています。

【イベント】

JAPANESE CLASSIC CAR SHOWは、毎年10月にアメリカ西海岸のロングビーチで開催される日本車イベント。今から20年前の2005年、トヨタクラブ、ダットサンクラブ、マツダクラブの各メンバーを母体に第1回を開催。徐々に規模を拡大し現在では参加台数500台、来場者数1万人以上の大規模な日本車イベントになっています。当初は「日本車などクラシックカーではない」と、アメリカ車ファンなどから叩かれたこともありましたが、JCCSを主催される山口さんが理解活動を進め、第2回で有力な新聞であるロサンゼルスタイムズに取り上げられたこともあり徐々に日本の旧車がアメリカ国内でも認められるようになりました。2025年は20回目を迎え、伝統あるイベントになっています。



写真提供: JAPANESE CLASSIC CAR SHOW

【オーナーズクラブ】

JDM車両を対象にしたオーナーズクラブや専門店も様々な国に広がっています。日産自動車のフィガロは1991年に日本国内で限定販売されたクルマですが、2000年代後半以降イギリス国内で人気を博しており、生産された約20,000台のフィガロのうち3,000台以上がイギリスに輸入されたと言われています。

イギリスにあるFIGARO Owners Clubは、イギリス国内だけでなくヨーロッパ各国でミーティングなどのイベントを定期的に開催しており多数のフィガロが集合しそれぞれの愛車を披露し楽しんでいます。ウェブサイトではオーナー同士の交流をサポートしたり、パーツ供給やレストアについての情報交換もできるようになっており幅広く活動しています。



写真提供: FIGARO Owners Club

【博物館展示】

コアな日本車ファンから始まったJDM文化ですが、今では伝統ある博物館でも取り上げられています。アメリカのLeMay-America's Car Museumでは“SHINKA”と題した日本車のテーマ展示を2024年に実施。ベルギーの自動車博物館であるAutoWorldでも2025年7月に“Big in Japan”と題した展示を実施しており日本車は世界の多くの博物館でも取り上げられるようになりました。

なぜ今日本車人気なのか?

1970年代の後半から、日本の自動車生産は飛躍的に増加、海外への輸出量も伸び、1980年代に入ると日本メーカーの海外生産も加速してきました。この時の日本車は値段が安く信頼性が高い(壊れにくい)という評価で急速に世界に日本車が浸透していきました。このころ日本メーカーの技術者たちは、欧州車と比較して走る、曲がる、止まるの車としての基本性能面ではまだまだ劣っていると感じており、技術世界を目指した各社の挑戦が始まります。日産自動車では1990年代までに技術世界を目指す901運動が始まり、マツダやトヨタでも欧州の峠道やドイツのニュルブルクリンクをはじめとするサーキットの走り込みなどを重ね、欧州車に追いつき世界一となるための挑戦が続いていきます。

世界一であることを示すためにレースの世界での挑戦も続き、WRCをはじめとする世界的なレースで日本車が優勝することも多くなり次第に日本車の評価が高くなってきます。しかしデビューした当時は現在ほど高い評価は得られませんでした。当時は欧州車と同等の数値性能を持っていたとしても欧州車が高い評価を受けており、日本メーカーのエンジニアたちは悔しさをにじませつつ、さらなる挑戦を続けていきました。80年代の車が世の中にデビューしてから30年以上が経った今、なぜ日本の車がここまで世界で人気が出たのでしょうか。アメリカのレーンモーターミュージアムがJDM車両のオーナーにとったアンケートの結果によれば、日本車が好まれる理由は、技術、デザイン、信頼性も含めた維持しやすさの3つなのだそうです。日本車の信頼性の高さは元来ベースとしてあり、これに加えて1980年代から発達してきたエンジンや電子制御などの技術の高さ、および唯一無二のデザインなどが評価され、人気が出ています。

さらに現在JDM車を高く評価しているのは、30代~40代が中心、日本車が世界に浸透したころに生まれた世代です。最初から家に日本車があったこの世代は欧州車だからとか日本車だからというくくりではなく、車を

フラットに評価しています。子供のころに遊んだゲームや見たアニメ、映画に登場する日本車を大人になって買えるようになったことで今人氣が過熱していると考えられます。今回の企画展示では、日本車人気を当時の最新技術、独自のデザイン、小さな高性能の3つの観点で展示しています。

【当時の最新技術】

各日本車メーカーは70年代からの排出ガス規制への対応で身に付けてきた電子制御技術を、クルマの走りにも活用するようになります。乗り心地を犠牲にすることなく操縦安定性を向上させる電子制御サスペンション、サーキットを速く走ったり雪道でも安定して走れる駆動力配分技術など日本車が次々搭載してきた電子制御技術は欧米のクルマにはない魅力として海外で映っているのではないのでしょうか。

【独自のデザイン】

各日本車メーカーは従来、欧州のデザイナーとの協業を行うことで自らのデザインを向上させてきました。1980年代以降は各社の内製デザイナーがデザインを担当することも増えたことで、日本車独特のデザインが生まれてきました。冷却、空力といったさまざまな機能要件を満たしつつデザインされたそれぞれのクルマは唯一無二なものとして愛されています。

【小さな高性能】

軽自動車は日本独自の自動車規格で、エンジンの排気量、車体の大きさに制限があります。この制限の中でいかに魅力的なクルマを作り上げるのかを各社が競った結果、AZ-1、ビート、カプチーノといったスポーツカーやジムニーをはじめとするオフロードタイプなど様々なクルマが生まれました。小さなボディに搭載するためのさまざまな小型化の工夫を行い、普通車同等の装備を凝縮して搭載するなど日本独自に発展してきた軽自動車はJDMの象徴ともいえます。



What's JDM?

世界が熱中する'80-'90年代の日本車

トヨタ博物館
TOYOTA AUTOMOBILE MUSEUM



車名	スプリンタートレノ	車両型式	AE86
■ 製造者:	トヨタ自動車	■ 年式:	1986
■ 全長/全幅/全高(mm):	4,215/1,625/1,335		
■ ホイールベース(mm):	2,400	■ 車両重量(kg):	980
■ エンジン形式:	4A-GEU		
■ エンジン種類:	水冷直列4気筒DOHC		
■ 排気量(ccl):	1,587		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	130/96/6,600		
■ 車両所蔵・写真提供:	トヨタ博物館		



車名	スカイラインGT-R	車両型式	BNR32
■ 製造者:	日産自動車	■ 年式:	1989
■ 全長/全幅/全高(mm):	4,545/1,755/1,340		
■ ホイールベース(mm):	2,615	■ 車両重量(kg):	1,430
■ エンジン形式:	RB26DETT		
■ エンジン種類:	水冷直列6気筒DOHC インタークーラーツインターボ		
■ 排気量(ccl):	2,568		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	280/206/6,800		
■ 車両所蔵・写真提供:	トヨタ博物館		



車名	アンフィニ RX-7	車両型式	FD3S
■ 製造者:	マツダ	■ 年式:	1991
■ 全長/全幅/全高(mm):	4,295/1,760/1,230		
■ ホイールベース(mm):	2,425	■ 車両重量(kg):	1,260
■ エンジン形式:	13B-REW		
■ エンジン種類:	水冷直列2ローターインタークーラーツインターボ		
■ 排気量(ccl):	1,308		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	255/188/6,500		
■ 車両所蔵・写真提供:	マツダ		



車名	ランサーエボリューションVI トミー・マキネンエディション	車両型式	CP9A
■ 製造者:	三菱自動車工業	■ 年式:	2000
■ 全長/全幅/全高(mm):	4,350/1,770/1,415		
■ ホイールベース(mm):	2,510	■ 車両重量(kg):	1,260
■ エンジン形式:	4G63		
■ エンジン種類:	水冷直列4気筒DOHC インタークーラーターボ		
■ 排気量(ccl):	1,997		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	280/206/6,500		
■ 車両所蔵・写真提供:	三菱自動車工業		



車名	インプレッサ WRX STi	車両型式	GC8
■ 製造者:	SUBARU	■ 年式:	1994
■ 全長/全幅/全高(mm):	4,340/1,690/1,405		
■ ホイールベース(mm):	2,520	■ 車両重量(kg):	1,220
■ エンジン形式:	EJ20		
■ エンジン種類:	水冷水平対向4気筒DOHC インタークーラーターボ		
■ 排気量(ccl):	1,994		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	250/184/6,500		
■ 車両所蔵・写真提供:	SUBARU		



車名	PA0 キャンパストップ	車両型式	PK10
■ 製造者:	日産自動車	■ 年式:	1989
■ 全長/全幅/全高(mm):	3,740/1,570/1,480		
■ ホイールベース(mm):	2,300	■ 車両重量(kg):	760
■ エンジン形式:	MA10S		
■ エンジン種類:	水冷直列4気筒SOHC		
■ 排気量(ccl):	987		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	52/38/6,000		
■ 車両所蔵・写真提供:	日産自動車		



車名	インテグラ Type-R	車両型式	DC2
■ 製造者:	本田技研工業	■ 年式:	1998
■ 全長/全幅/全高(mm):	4,380/1,695/1,330		
■ ホイールベース(mm):	2,570	■ 車両重量(kg):	1,100
■ エンジン形式:	B18C		
■ エンジン種類:	水冷直列4気筒DOHC		
■ 排気量(ccl):	1,797		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	200/147/8,000		
■ 車両所蔵・写真提供:	Honda Collection Hall		



車名	シャレード テトマン	車両型式	G11
■ 製造者:	ダイハツ工業	■ 年式:	1984
■ 全長/全幅/全高(mm):	3,600/1,575/1,390		
■ ホイールベース(mm):	2,320	■ 車両重量(kg):	690
■ エンジン形式:	CB-50		
■ エンジン種類:	水冷直列3気筒SOHC ターボ		
■ 排気量(ccl):	993		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	80/59/5,500		
■ 車両所蔵・写真提供:	ダイハツ工業		



車名	セルボ・モード	車両型式	CN31S
■ 製造者:	スズキ	■ 年式:	1990
■ 全長/全幅/全高(mm):	3,295/1,395/1,370		
■ ホイールベース(mm):	2,335	■ 車両重量(kg):	670
■ エンジン形式:	F6B		
■ エンジン種類:	水冷直列4気筒DOHC インタークーラーターボ		
■ 排気量(ccl):	658		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	64/47/7,000		
■ 車両所蔵・写真提供:	スズキ		



車名	ミラTR-XX	車両型式	L70V
■ 製造者:	ダイハツ工業	■ 年式:	1987
■ 全長/全幅/全高(mm):	3,195/1,395/1,400		
■ ホイールベース(mm):	2,250	■ 車両重量(kg):	570
■ エンジン形式:	EB		
■ エンジン種類:	水冷直列3気筒SOHC インタークーラーターボ		
■ 排気量(ccl):	547		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	52/38/6,500		
■ 車両所蔵・写真提供:	日本自動車博物館		



車名	シビック Type-R	車両型式	EK9
■ 製造者:	本田技研工業	■ 年式:	1997
■ 全長/全幅/全高(mm):	4,180/1,695/1,360		
■ ホイールベース(mm):	2,620	■ 車両重量(kg):	1,070
■ エンジン形式:	B16B		
■ エンジン種類:	水冷直列4気筒DOHC		
■ 排気量(ccl):	1,595		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	185/136/8,200		
■ 車両所蔵・写真提供:	Honda Collection Hall		



車名	フィガロ	車両型式	FK10
■ 製造者:	日産自動車	■ 年式:	1991
■ 全長/全幅/全高(mm):	3,740/1,630/1,365		
■ ホイールベース(mm):	2,300	■ 車両重量(kg):	810
■ エンジン形式:	MA10ET		
■ エンジン種類:	水冷直列4気筒SOHC ターボ		
■ 排気量(ccl):	987		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	76/56/6,000		
■ 車両所蔵・写真提供:	日本自動車博物館		



車名	オートザム AZ-1 プロトタイプ	車両型式	PG6SA
■ 製造者:	マツダ	■ 年式:	1993
■ 全長/全幅/全高(mm):	3,295/1,395/1,150		
■ ホイールベース(mm):	2,235	■ 車両重量(kg):	720
■ エンジン形式:	F6A		
■ エンジン種類:	水冷直列3気筒DOHCインタークーラーターボ		
■ 排気量(ccl):	657		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	64/47/6,500		
■ 車両所蔵・写真提供:	マツダ		



車名	ビート	車両型式	PP1
■ 製造者:	本田技研工業	■ 年式:	1991
■ 全長/全幅/全高(mm):	3,295/1,395/1,175		
■ ホイールベース(mm):	2,280	■ 車両重量(kg):	760
■ エンジン形式:	E07A		
■ エンジン種類:	水冷直列3気筒SOHC		
■ 排気量(ccl):	656		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	64/47/8,100		
■ 車両所蔵・写真提供:	トヨタ博物館		



車名	カプチーノ	車両型式	EA1IR
■ 製造者:	スズキ	■ 年式:	1995
■ 全長/全幅/全高(mm):	3,295/1,395/1,185		
■ ホイールベース(mm):	2,060	■ 車両重量(kg):	700
■ エンジン形式:	F6A		
■ エンジン種類:	水冷直列3気筒DOHC ターボ		
■ 排気量(ccl):	657		
■ 最高出力(PS/kW/min ⁻¹):	64/47/6,500		
■ 車両所蔵・写真提供:	トヨタ博物館		

■ 全期間展示 ■ ~'26年1月12日まで展示 ■ '26年1月14日~展示

おわりに

1980年代からの日本車の「世界に追いつけ追い越せ」という挑戦でたくさんの名車生まれ、こうしたクルマたちを海外の一部の日本車マニアが車両を輸入して楽しむところからJDMは始まりました。今では世界規模でJDMの日本車が愛されるようになり、海外の博物館でも企画展示として取り上げられるようになりました。日本車が世界一と言われるようになった2000年代以降に生まれたクルマでもJDMとして世界で人気を博す車は生まれ続けています。今販売されている日本車でも、世界からこの日本車はすごいと将来人気が出るクルマがきっと出てくるはず。果たしてそれはどんなクルマでしょうか？皆様も思いを馳せてみてください。

クルマの図書室

AUTOMOBILE DISCOVERY LIBRARY



文化館3Fの「クルマの図書室」では、この'80-'90年代の日本車企画展に連動した図書展示を期間限定で行っています。クルマのカタログからお子様向けの絵本まで自動車に関する資料を豊富に所蔵しております。こちらまでぜひご来場ください。